

研究テーマ

地理分野における「生きる力」とは

実践内容資料

1. 中学校地理の指導内容の変遷について
2. 世界地誌の実践
3. 日本地誌の実践
4. 具体的実践例

参考資料

5. 2010(平成 22)年度実践記録「旧指導要領 地域調査の総括」
6. 2011(平成 23)年度実践記録「日本の諸地域先行実施と 3D アナグリフ」

## 実践内容資料

### 1. 中学校地理の指導内容について

新旧指導要領の断絶を越え継続性を保障する理論的な背景を明確化する。その理論的背景にたつて、自分は過去2年間、世界地誌と日本地誌の動態テーマをどう設定し、系統化するかを考え実践した。

#### (1)戦前～戦後初期

戦前の地理教育は、明治の学制以降、産物の列挙・暗記という地誌からスタートし、大正時代に地理的環境と事象の因果関係を洞察する人文・自然科学としての地理に発展した。また、昭和に入り生活綴り方運動とつながる郷土学習が現場からの実践として積み上げられ、身近な地域を地理的に学ぶ方向が生まれた。戦争中は国民学校の国民科で日本精神を地理的な分野から追及する皇国地理が唱えられ、国家を共同体と考えるドイツ観念論・ナチス国民学校の影響を受けた郷土学習が盛んになった。

総体的に見て、左右のイデオロギーの影響を受けながらも、基本は「文明開化期の物産の地誌」から「自然・人文科学の地理+身近な地域学習」へという大きな流れが日本の近代地理教育の流れと言える。日本社会の近代化に対応する「生きる力」を学ぶ流れといってよいだろう。

文部省中等教育検定試験（文検）地理の問題内容がこの頃の地理教育の方向を示しており、全国の小学校教員でしっかり地理を教えたいと考える教員はこの文検受験者のサークルをつくり自主的に勉強していた。

浜松師範（静岡第二師範）の井出栄二氏は、そのような初等中等地理教育サークル「同舟会」の中心として、特に静岡県の戦後社会科地理教育に影響力を残している。「地と人」は、戦後初期社会科を新制中学校でになった人々の様子を伝えてくれる。コアカリキュラムと総称される・一般社会科・初期社会科の息吹を伝える中央の資料（「土地と人間」）や1947 学習指導要領試案は、現実にはこのような教師がこのような形で行ったのだった。

その特色をひと言で言えば、皇国地理学・ナチ流郷土学習を廃し、ドイツ・イギリスなど人文地理・自然地理を平明な内容で生徒の紹介したものと見える。そして、その構成は身近な地域の学習から始まって、様々な地理的事象を取り扱う系統地理の内容である。また、「身近な地域の地理」の一部は、生活綴り方運動と結んだ郷土学習として「綴り方風土記」にまとめられ、社会改革の運動とも結びついていた。荒廃した国土の復興が最重要な課題だった時期の「生きる力」はこれだった。

#### (2)高度成長期・・・網羅的な地誌教育の時代 1960～1990

高度成長期の社会科地理は、6つの州の世界地誌・7地方の日本地誌に代表される網羅的な地誌学



習である。「這いずり回る社会科からの脱却」「教育の現代化」は、テレビが普及し始め新しい知識を貪欲に吸収し始めた子どもたち・教師たちに、カラー写真やグラフ、動画などを伴って知的な興奮の幅を広げたのである。毎年新しくなる教材、機器。新しいカラーグラビアの資料や本。網羅的であることが苦痛ではなかった時代である。日本が復興し、世界とつながる時代の「生きる力」だった。

しかし、1970年代後半からは、高度成長が限界に達すると同時に、その知識は飽和状態になり、網羅的な言語知識事項を詰め込む受験知識偏重という問題に帰結したのである。いまでも、基本的な地理の学習の枠組みはここにあると言える。週4時間・年間140時間で実施された。



### (3)総時数削減＝「ゆとり教育」における地域調査学習の展開 1990～2010

この完成された知識体系を大きく転換させたのが、2000年代の第6次指導要領、いわゆる学校五日制完全実施・総合学習導入・時数削減の指導要領である。これは地理分野では、1990年代の第5次指導要領から2段階でイギリス式地理カリキュラムの導入となって実現した。それまでの地誌学習から、「アクティビティ」と総称される地域調査に取って代わったのである。1990年代指導要領は世界地理を3～4の国の範例学習にかえ、さらに2000年には日本地誌も3つの都道府県の調査となり、身近な地域→都道府県→3つの国という調べ学習の形が完成した。週時数3時間年間105時間と時数も削減された。 \*以下、指導要領告示～実施の年を省略し、便宜上「1990年代指導要領」と表記する

この改訂で特に主張されたのは、「生きる力」としての「地理的事象の変化に対応する能力」である。既成の知識の習得ではなく、変化する社会の現実に対応し、新しい技術や知識を習得する能力こそが大切であるとされた。3つの地域調査は、調べる意欲とスキルこそが大切であるとされた。

それまでが、網羅的な地誌だったため現場にとってこの転換は衝撃的だった。扱う内容から授業方法・評価規準全てが変わり、何をどう教えて良いのか分からないという戸惑いが広がった。各地域で扱った膨大な地理的事象は、系統地理に精選集約され、範例学習以外の個別の事項は捨象されたのである。

### (4)現行指導要領の世界・日本の地理学習2010～

2000年代第6次指導要領は「学力低下」というマスコミの批判を受け、2010年代の第7次指導要領は再び時数・内容増に舵を切った。地理分野では、「都道府県の名前もいえないようでは困る」という言葉に象徴される地誌捨象への世間からの批判を受けて、世界地理は6つの州、日本地理は7地方区分で学ぶことになり、3つの規模の地域調査は、「身近な地域」を除いてすべて姿を消した。教科書は教える内容を大幅に復活・増加させ、(2)の時代に戻った構成となっている。内容は増えたが、時数は3年のみ3→4であり、ほとんど増えていないにもかかわらずである。現場では、現実の分厚い教科書を前にして、年配の教員は、20年前に戻ったと考えて効率的な知識の教え込みに走り、若い教員は世界と日本の全ての学習の教材研究に必死である。身近な地域は2年の最後に設定されたため、このままでは時数不足で扱われなくなるだろう。

### (5)問題の所在

高度成長期の詰め込み式指導要領への回帰でよいのだろうか。指導要領作成関係者からは「(3)の時代の地理があまりに大きな変化だったので現場がついて行けなかった」という発言がある。これは、現場でも実感することだろう。「単なる調べ学習スキルの学習では何を覚えさせたらいいかわからない、テストはどう作るのか」言う声をよく聞いた。だからといってかつての網羅的地誌への回帰は不

毛である。時数の面でも無理である。

私たちは、左右に振れる振り子の振れ幅を無自覚に自分たちでより増幅しているのである。実は、新旧指導要領で「生きる力」という目標は変わっていない。教科書は網羅的な内容に回帰している傾向があるが、指導要領の目標は網羅的な知識習得ではなく、「適切なテーマを設けて取り上げる内容を精選する動態地理」が提唱されている。さらに言えば、高度成長期の指導要領の「網羅的な地誌」も、決して全てを取り上げるのではなく、自然・歴史・人口・産業・交通などテーマが設定されていたただ、その頃は、たくさん教えることがいい教育と考えていたのである。

現行指導要領では、網羅的な地理学習に陥らないように、扱う地域ごとに社会の動きに関わる適切なテーマを設けて「動態地誌」を学ぶこととしている。この、現代社会の動きの本質に関わるテーマをどう取り上げるか、という問題意識こそが社会科を学んで獲得すべき「生きる力」なのである。

前回指導要領の3つの国・都道府県にしても、「どこをなぜ取り上げるか」が動態テーマであった。「現場がついて行けない」というのは、なぜそこを取り上げるのかということを考えられなかったと言うことである。「教科書に載っているから」ではなく、現代社会に生きる私たちの課題に関わるテーマで、取り上げる地域を考えていけば、調べる内容も調べる方法ももっと生き生きとしたものになっていたはずである。それが多くの学校ではできなかった。(2000年代指導要領地理の問題点は、調べ方という狭いスキル習得だけが目標とされ、現代の日本と世界にかかわる動態テーマへの言及がなかったことにある。また、調べるスキルも1つの地域の静態地誌だけであり、2つの地域の動態を比較する手法は扱われていなかった。)

新旧2つの指導要領があまりにも大きな体系の違いがあるため、私たちは問題の本質に気づかないのである。大切なことはその地理的事象をなぜ取り上げるのかという教師自身の問題意識である。かつて戦後初期の社会科では、「敗戦後の国土の復興と平和で豊かな社会の構築」という生きた目標がすぐそこにあった。学ぶことが生きる力だった。高度成長初期の社会科でも、知識が豊かになることは世界とつながり生活が豊かになることだった。今回の改訂でも、言語知識事項の暗記に回帰するのではなく、生徒が生きる現代社会が直面する課題を取り上げる教師自身の問題意識こそが検討されなければいけないのである。

## (6) 課題解決の方向性

現代社会に「生きる力」が何かは、動態テーマに何を設定するかという課題意識そのものである。日本地理では自然・環境・人口・交通・伝統文化・歴史・産業という7テーマを予め設定している。世界地理では6つの州毎に学校で設定することになっている。この独自に設定できるという点は、総合的学習の時間と同じである。社会科はもともと、総合学習としての「一般社会科」から出発した。私たちは、高度成長期の分野別系統化された「社会科」になれてしまって、本来の「生きる力」としての社会科学力を忘れてはいないだろうか。

21世紀の現代世界と日本を取り巻く様々な課題の中から何をとりだし、何をその地域で学ぶのか。それは、指導計画を立てる際、常に教師、教科部会で真剣に考え検討しなければいけない。教科書に載っているから取り上げるのではなく、受験に出るから取り上げるのでもない。そういう、社会問題に対する教師自身の感受性が問われているのである。今回の自分の実践では、世界の諸地域を取り上げる際のテーマについて、その視点から考えたものを発表する。

また、日本の諸地域においては、動態テーマは予め示されているので、前指導要領の「調べ方スキル」で不足していたと考える「比較・対照」の手法を取り入れた実践を紹介する。動態地理学習においては、異なる地域を比較するスキルが欠かせないと考えるためである。

## 2. 世界地誌の実践

各州毎の動態テーマを、現代世界を生き生きと大きく眺めることができるように、経済発展の不均等・環境問題など21世紀の主要な課題を設定した。その際、インターネットで入手できる動画やネットで購入できる実物などを可能な限り用意した。

### 2012年実践 世界地理・各州の動態地誌

大単元	動態地誌のテーマ解説	各時数	使用教材
1 多様なアジア	様々なアジアの姿を見せ、「多様性」をキーワードとする。まず東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジアの5つに区分されることを知り、その異質な自然、社会、発展段階に気づかせる。各区分地域の学習は、それぞれの現実がどう日本の私たちとつながっているかを中心に学び、ステレオタイプタイプの理解を越えて、次々と変化している様子に触れさせる。特に中国は、日本の高度成長期と同じであることに気づかせる。最後に、なぜこれほど多様な地域がアジアとしてひびくりにされているかについて考えさせ、ヨーロッパ中心の世界観によって形成された「アジア」という古典的世界観が歴史的転換期にあることに気づかせる。	1 アジアの自然	東書グリーンマップ3D解析アジア・5人のアジア人の写真(胡錦濤など)
		2 中国の気候と農業	各民族写真(漢・ウイグル・ミャオ・チベット・朝鮮)・人口ピラミッド1970年2010年
		3 中国の民族	中華料理写真(北京・広東)馬乳酒写真
		4 中国の工業	バクリガンダム・日本のバクリアジンストープ・民工潮写真・太平洋ベルトと経済特区の分布マグネット
		5 朝鮮半島	ハングルの新聞・放送音声・ギャラクシー
		6 中国・朝鮮と日本	中国国歌歌詞と歌の実演
		7 多様な東南アジア	マレー語・中国語・英語・アラビア語による「danger」の看板
		8 異質な西アジア	ドバイタワーと東京スカイツリーの比較の写真・ギブラコンパスとイスラム服
		9 なぜ多様なのか	トレミーの世界図・TOマップ・16世紀の世界地図
2 アフリカの貧困	世界の現状をクラスの給食の分配にたとえ貧富の差を認識させる。貧困地域の代表として、その理由と現状、解決方法を考える。カカオ農園の児童労働を調べることから部族社会とジェンダーが問題の鍵であることに気づかせる。部族・人種対立を越えてゆく未来への希望として、義務教育学校を作る努力と南アの新国家建設を学ぶ。	1 アフリカの自然と部族	ジャンベ・カリンバと即席演奏・セレンゲティ国立公園の画像
		2 部族社会の歴史と現在	奴隷船写真・1940年代の世界地図
		3 カカオ農園から考える貧困の原因	生カカオ豆実物・チョコレート実物・カカオ農園児童労働のDVD
		4 憎しみをどう乗り越えるか…アフリ	「遠い夜明け」と「invictus」
3 ヨーロッパの豊かさ	アフリカと対照的に豊かな地域の象徴としてのヨーロッパがなぜ成立したか、自然・歴史・文化から探る。農産物はフランス料理、工業製品は自動車と航空機を例に豊かさの背景を探る。また、この豊かさを維持できるか、今後世界をリードできるかについて、品質基準や環境対策の取り組みを中心に考えさせる。	1 ヨーロッパの自然と文化	地中海・西岸海洋性・冷帯の写真・気候グラフ・キリスト教(ローマ教会・プロテスタント・ロシア正教)の写真
		2 フランス料理から考える豊かな食	AOCカマンベールと日本の偽カマンベール・ワイン・フランスパン
		3 先進工業国EUの歴史と現在	自動車会社ロゴ・エアバスA380の分解パネル・アリアンロケット写真
		4 EUの優越性は続くか	EU-original productsのロゴ・グリーンマークロゴ
		5 ヨーロッパまとめ+ロシア	スターリン・プーチンの顔
4 超大国アメリカ	「超大国アメリカ」をキーワードとして、20世紀を通して世界をリードする力を持つことになった理由を探る。温帯可住地面積が一番広いこと、植民地建設以来の自由平等という根本理念を出発点として、農業工業の現状を調べる。様々なマイナスを抱えながらもそれを克服しようとする努力があることを知り、超大国として現在をリードする現状を理解する。最後に国内の分裂や経済・軍事面での世界支配への反発など、負の側面も知る。	1 超大国を生む自然の背景	アメリカ鳥瞰図
		2 世界をリードするアメリカの理念と理想	ネイティブアメリカン・メイフラワー・ワシントン・リンカーン・ルーズベルト・オバマの写真「忠誠の誓い」映画プライベートライアの冒頭
		3 世界を支配する農業	アメリカと日本の農地の比較の図 カントリーロードの歌(CDまたは実演) wheat harvest 動画
		4 世界を支配する工業	巨大企業ロゴ・GEのエンジン工場・ボーイング787の製造ライン
		5 アメリカの将来	911テロ動画・イラン反米デモ・民主党共和党の選挙戦動画・オバマとブッシュの写真
5 人・南米と地球環境	アマゾンの生態系、ブラジルのバイオ燃料を柱に地球環境問題をきちんと認識する。また「日本との人のつながり」をキーワードに、地球の反対側と日本となぜこれほど人のつながりが多いかを探る。日系人の名前からラテンアメリカの歴史と文化を知り、日本への出稼ぎの理由から経済の様子を学ぶ。	1 南米の独自の歴史と自然	インカ帝国の写真・ケーナとパンフルート実演・日系生徒のポルトガル語解説・ボンチョを着てリコーダーでel condol pasa(コンドルは飛んで行く)演奏
		2 ある家族の移民史	コーヒー豆(ブラジルサントス)実物・日系生徒の家族史
		3 アマゾンの熱帯林	熱帯林の生態系イラスト・オレンジジュース・ハンバーガー・さとうきび
6 南太平洋の隣人	「日本とのつながり」をキーワードに、相互補完関係にある経済・環境・文化政策の結びつきの様子を学ぶ。オーストラリアとは資源・商品の関係、オセアニア全体とは歴史・民俗・戦争体験・先住民文化の弾圧と復権を扱う	1 オセアニアの自然と歴史・民族	有袋類の動物イラストパネル・エアーズロック・珊瑚礁写真
		2 オーストラリアと日本	羊毛刈り取り動画・マウントニューマン動画・巨大ダンプとコンバインのパネル画
		3 オセアニアと日本	椰子の実実物・水字貝実物・タロイモ・戦争遺跡写真・マオリのハカ動画・アイス写真
7 インドの調査	インドを調べレポートにまとめる。自然・産業・文化の基本は教師が紹介し、調べる導入とする。その際できるだけ生き生きとした実物を用意し、言語知識だけにしないよ	1 自然を調べる	インド地形図・各種スパイス・カレーパウダー製作実演
		2 産業を調べる	インディカ米実物・綿花・綿糸・インド更紗実物・グルカパジャマでターバン巻き実演
		3 文化を調べる	映画ガンジーでカースト・宗教対立を教える



### 3. 日本地誌の実践

指導要領で掲げられた7テーマを具体的に扱う際、特に「高度成長」をキーワードとすることで、旧指導要領の範例学習・地域調査アクティビティとの一貫性を保った。また、世界地誌よりも具体物が容易に入手できるので可能な限り実物などを用意した。その際、身近な自分たちの生活と対照して比較することができる視点を大切にした。

大単元	動態地誌のテーマ解説	各時数	使用教材	
1	環境と九州	1	九州の自然環境	3Dアナグリフ九州・鳥瞰図
		2	火山とくらし・・・シラス台地・阿蘇・雲仙	シラス実物・鹿児島黒豚シール
		3	地理環境と工業・・・北九州工業地帯の立地条件	製鉄高炉パネル図・IC実物
		4	独自の環境と文化・・・沖縄	琉球列島パネル図・シーサー・ティンサグヌ花の実演・在日米軍Yナンバープレート
2	人口と中国四国	1	中国四国の地域区分と人口分布	3D中国四国アナグリフ図・人口ピラミッドパネル
		2	人口が多い条件・・・瀬戸内工業地域	タンカー・石油化学工業パネル図・ナフササンプル
		3	人口が減少する理由・・・中国山地の過疎問題	備長炭実物
		4	過疎への取り組み・・・龍馬なすの販路	なす実物・施設園芸パネル図
3	歴史と近畿	1	近畿地方の自然と歴史	近畿3Dアナグリフ・平城京写真
		2	京都奈良の歴史環境と街並み保全	平城宮蹟写真・アクト写真・京都のマック写真
		3	阪神工業地帯の歴史	家電企業ロゴ・象印・住友金属ロゴ
		4	紀伊林業の歴史	国産杉角材・輸入集成材角材・林業説明パネル
		5	琵琶湖・湖と人の歴史	「ほんまや」(大阪市水道局実物)琵琶湖と浜名湖のパネル
4	産業と中部	1	中部の地域区分と産業	中部地方3D・断面図パネル
		2	機械工業の盛んな東海	google earth 豊田と浜松 自動車部品パネル
		3	北陸の豪雪と産業	冬の気象図パネル
		4	中央高地の産業	セロリ実物・スキー場アクセス地図
5	関東と他地域との交通	1	関東の自然と特色	関東地方3D
		2	すべての上りの終点、首都東京の成り立ち	東京と江戸の地図
		3	京浜工業地帯はなぜ日本一か	関東平野地図・企業ロゴ・出版社所在地
		4	首都への交通が生み出す産業 近郊農業	「浜名湖の花」実物
		5	首都への人口集中と交通	新幹線時刻表(東海と東北の比較)・鉄道図・「平成狸合戦ポンポコ」
6	東北の伝統文化	1	東北の自然と歴史	東北3D地図
		2	東北の米作り	ササニシキ白米実物・庄内平野写真・米作農家経営説明パネル
		3	東北の伝統産業・芸能・観光	東北弁シナリオ・遠野物語語り部CD・映画「おくりびと」dvd
		4	3.11を越えて	3.11映像・生徒作文・原発被害地図
7	北海道の自然	1	北海道の独特な自然	北海道3D・アイヌ服
		2	十勝と根釧の大規模農業	牛乳(北海道加工乳・地元の低温殺菌生乳)ほくれん丸説明パネル
		3	鮭と鱈の工夫 北海道の漁業	かまぼこ実物・スリミ説明パネル

## 4. 具体的実践例

### (1)中国の授業3現状と課題・・・日本の高度成長との比較 teach China-now comparing with Japan 60's..

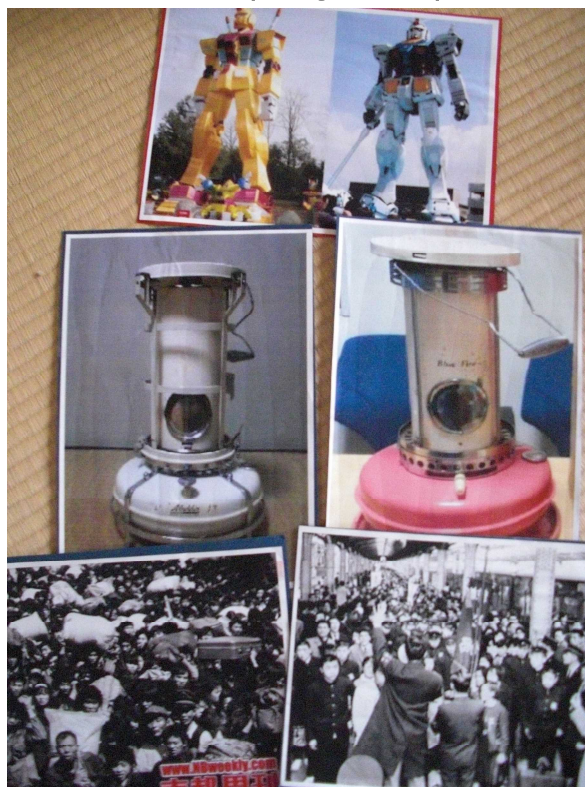
①ぱくりガンダムなど現在の中国のイメージを出させる。急速な発展・模倣・公害など項目ごとに整理する。

②ぱくりストーブの写真を見せ、どこの国かあてさせる。答えは日本の1960年代

③経済成長率のグラフ・太平洋ベルトと経済特区・人口ピラミッドのデータから、日本の60年代高度成長と現在の中国がほぼ同じであること、現在の中国の課題が当時の日本ではほぼ出尽くしていることに気づかせる

④日本と中国が今後どういう関係を持つべきかを考える。

ぱくりガンダム(上)ぱくりストーブ(中)広州駅前(「民工潮」と上野駅(集団就職)



### (2)「アフリカの貧困」の授業

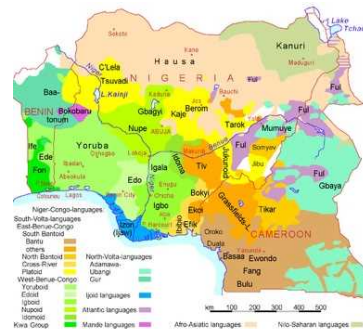
表面的な言語事項の暗記(モノカルチャー・奴隷貿易・アパルトヘイトなど)では、アフリカの現在の課題を学んだことには成らない。実物とそれを生み出す具体的な人間のあり方まで行き着くことが大切ではないかと考えて行った実践。

#### 第1時 ジャンベのリズムから

美しい自然・伝統的部族社会と奴隷貿易・植民地化・独立後の苦難を教える

①ジャンベ(アフリカ各地にある太鼓)とカリンバを用意し、教室で軽くたたいてみる。黒板にはアフリカの大自然の写真を何枚か貼る。たたいたリズムの違いが部族の違いであることを紹介する。

②ギニア湾岸地域の多数の部族分布地図を紹介する。奴隷貿易船の図を見せ、なぜ奴隷貿易が行われたかを考えさせる。部族社会と家父長制のジェンダーがキイである。独立後近代国家として国民経済や国民教育が発展できず内戦が繰り返される原因もこれであることを指摘する。



#### 第2時 カカオと貧困

①フェアトレード NPO「分かち合いプロジェクト」から入手したカカオ生豆の実物を見せ、何かあてさせる。チョコレートは大規模な製造設備を必要とし、産業革命が進んだ地域でしか作られない。原料カカオは穀物商社に流通を握られ、地元では製品化されない。モノカルチャーと経済格差の象徴であることを押さえる。





② DVD「世界が百人の村だったら」を見せ、児童労働の実態を紹介する。

学校を作ることが、この貧困の連鎖を抜け出す最も有効な方法であることを指摘する。世界のどの国も貧困から抜け出したのは「子どもの平等な教育」に成功した国であること、アフリカでなぜそれがうまくいかないかを考えさせる。

### 希望はあるか…憎しみの連鎖を越えて

① アパルトヘイト下の告発映画「遠い夜明け」を紹介し、アパルトヘイトの歴史を説明する。

② つぎにアパルトヘイト克服の歩みが進む現状を紹介するために映画「INVICTUS」を見せる。対立を越える和解 reconciliation の実践を行ったネルソンマンデラの精神を紹介する。

アフリカの部族社会の対立が、地球規模で起こっているのが南北格差（植民地支配）や地域主義・ナショナリズム・文明衝突論だろう。マンデラたちが南アフリカで行ったことは21世紀の希望とっていいのではないかな。そういう希望を紹介して単元を終わる。



### (3)南アメリカの授業2地球環境問題とブラジル teach Latin America2.

① 地球環境の形成史概説

46億年の地球の歴史で光合成が地球の大気組成を作り、豊かな生態系を生んだこと  $CO_2 + 2H_2O \rightarrow CH_4$  (炭水化物によるCのとりこみ) +  $O_2$  (酸素)

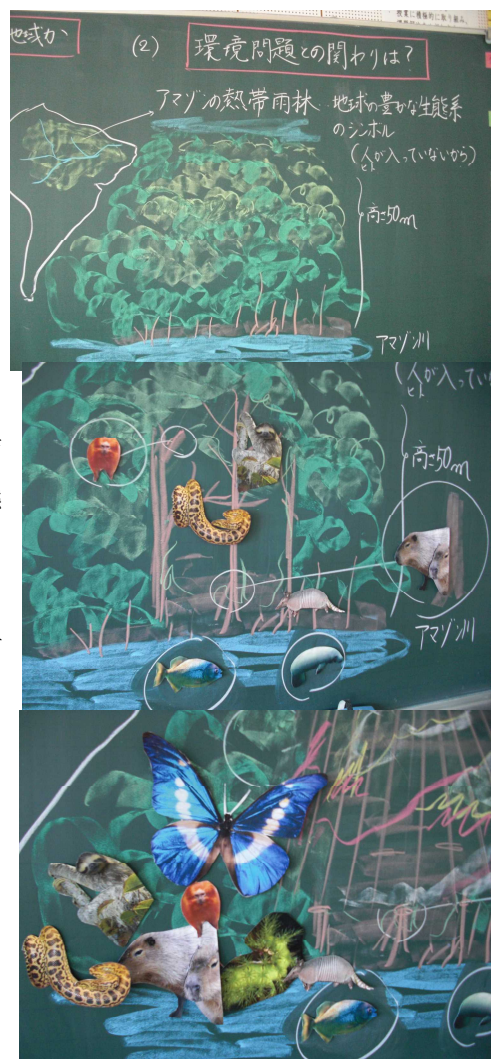
② 地球環境問題

たった200年前からの産業革命でヒトだけが異常に発展したこと 化石燃料Cの使用は地球のリセットであること

③ アマゾンの熱帯林破壊がなぜいけないかを考える 熱帯雨林だけが人の手が入らない豊かな生態系が残った地域。生態系破壊の様子を板書を通してリアルにとらえる。greenpeaceのsave rainforestのキャンペーン動画(youtube)も見せる。

④ ブラジルカンボに栽培が広がっているサトウキビのバイオ燃料の意味 京都議定書と炭素中立について

最初の①②をきちんと教えることで地球環境問題を言葉の暗記ではなく、理性的に考える授業にすることができる。③の説明で使った板書。以下の絵を順次描きながら生徒に説明する。アマゾンの緑の下に広がる世界を生徒に意識させるのが狙い。





#### (4)日本地誌「歴史と近畿地方」の授業 歴史景観保全について

- ①東寺五重塔を遠景にする京都の風景と、アクトがたつ浜松駅前の写真を比較する
- ②なぜ、京都にアクトのような建物が建たないのかを考える。
- ③その他の具体例として、マック・G Sの看板などを比較する
- ④歴史景観保全が、2つの都市の住民の価値観の違いであることに、伊場遺跡問題と平城宮跡保存問題の経過と結末の違いを説明し、考えさせる。(伊場遺跡は史跡指定を解除し、駅前開発を優先した結果、遺跡は破壊され、駅前にアクトがたつた。平城宮は、国道バイパスを迂回させ、遺跡周辺を全て国が買い上げ、遺跡公園として保存公開した。)

#### 水環境保全の歴史

- ①浜名湖と琵琶湖を比較する 名前・大きさ・成り立ち・水質など
- ②浜名湖と琵琶湖の湖岸の環境の違いを比較し、その理由を考えさせる。
- ③近畿地方における飲用水資源としての琵琶湖の価値を学ぶ。滋賀県の総合学習「琵琶湖学習」体験学習船「うみのこ号」を紹介する
- ④浜名湖の漁業資源としての価値を紹介し飲用水は天竜川であることに気づかせる。
- ⑤大阪市水道局の高殺菌清浄水「ほんまや」を紹介し、水を守る努力の大変さに気づかせる。



#### (5)日本地誌 「北海道の農業」の授業

- ①北海道の農業が、大規模・機械化だが、それでも十勝平野でアメリカ・オーストラリアに比べ生産価格差3倍になる。その不利を、少量出荷・安全性で勝負している現実を、スーパーで売っている北海道産コーンとアメリカ産コーンの缶詰実物で比較し、納得させる。
- ②牛乳A/B/Cを用意し、代表生徒に飲み比べをさせる。

i おいしい・ふつう・まずい ii 牛乳らしい・ふつう・らしくない

の感想を言わせる。最後に、どれが北海道なのか当てさせる。

正解は、おいしい＝低温殺菌＝地元 普通＝超高温殺菌＝地元 まずい＝脱脂乳＝北海道

- ③根釧台地の牛乳が、大規模だが市場に遠いため原料乳として利用され、生乳に対し利益率が10分の1であることを確認する。北海道の牛乳は、おいしいが生で飲むことはできないという一般的な認識をおさえる。

- ④ところが、最近北海道産の普通の牛乳が関東～静岡のコンビニで売られていることを紹介する。

なぜ、賞味期限が短い生乳がこの地域で売られているのか、考えさせる。

- ⑤ほくれん丸という牛乳運搬専用タンカーの内容を紹介する。特に、この開発の主体となった「ほくれん」(北海道の農協組織)の開発当時のメールを紹介し、現場の創意と工夫



で、困難を克服できること、農業は特にオリジナリティに富んでいる魅力的分野であることを伝える。

トレーラーによる早朝の牛乳の集荷→釧路港での乗船→タンクだけ残してトレーラーは下船。→トレーラー運転手は翌朝再び集荷。ほくれん丸は釧路港から一路「ひたちなか港」へ。20ノット20時間で到着→ひたちなか港に、工場配送用トレーラー車が待っていてタンクを取り付ける→常磐自動車道で首都圏の牛乳工場へ→その日のうちに殺菌・首都圏のコンビニへ

ほくれん丸は、1隻60億円のこの船を2隻造った。なぜ2隻必要かを考えさせる。

1. はじめに

今回指導要領改訂で最も大きく変わったのは地理分野・「地域の規模に応じた調査」である。現行のh10指導要領では(1)身近な地域の調査→(2)都道府県の調査→(3)国の調査という、自分の周囲から地域の規模を広げて2~3の事例を取り上げる範例学習で構成されている。今回の改訂では、日本は各地方区分ごとに7テーマ、世界は6大州のすべてを取り扱い、順序も世界→日本→身近な地域という真逆の扱いになった。「動態地誌」という言葉で網羅的な地誌学習ではないことを謳っているが、授業時数の増加もあって25年前の詰め込み地理に復帰したととらえる人が多いだろう。

問題なのはこれほど大きな転換が、現場で教える立場に与える影響をまったく考えずに行われていることである。h10改訂に謳われた「網羅的な暗記の地理から、多様な地理事象認識の座標軸をつかませる範例学習への転換」という渋澤文隆専門委員主導による改革のどこが良くなかったのか。どこを継承してどこを改めるのか、文科省サイドからの検証と反省を私は聞いたことがない。現場サイドで最も困るのは、理念なきこの転換が「暗記の社会科でよしとする教員」「つまらないけど受験のために我慢して覚える生徒」を存続させることである。

現行指導要領が完全実施されて3年以上たっても、網羅的な地理を行っている教員が何人もいた。「どの県や国をなぜ、どう取り上げるのか」という研修を教育研究会で積極的に行っただろうか。今回の改訂は、一生懸命授業改善を行ってきた先生がハシゴを外された思いを持つのではないか。現行指導要領導入期に社会科部長という立場にあった自分としては、現行地理の学習の仕方をきちんと総括する責任を感じて以下の実践記録を示すことにした。

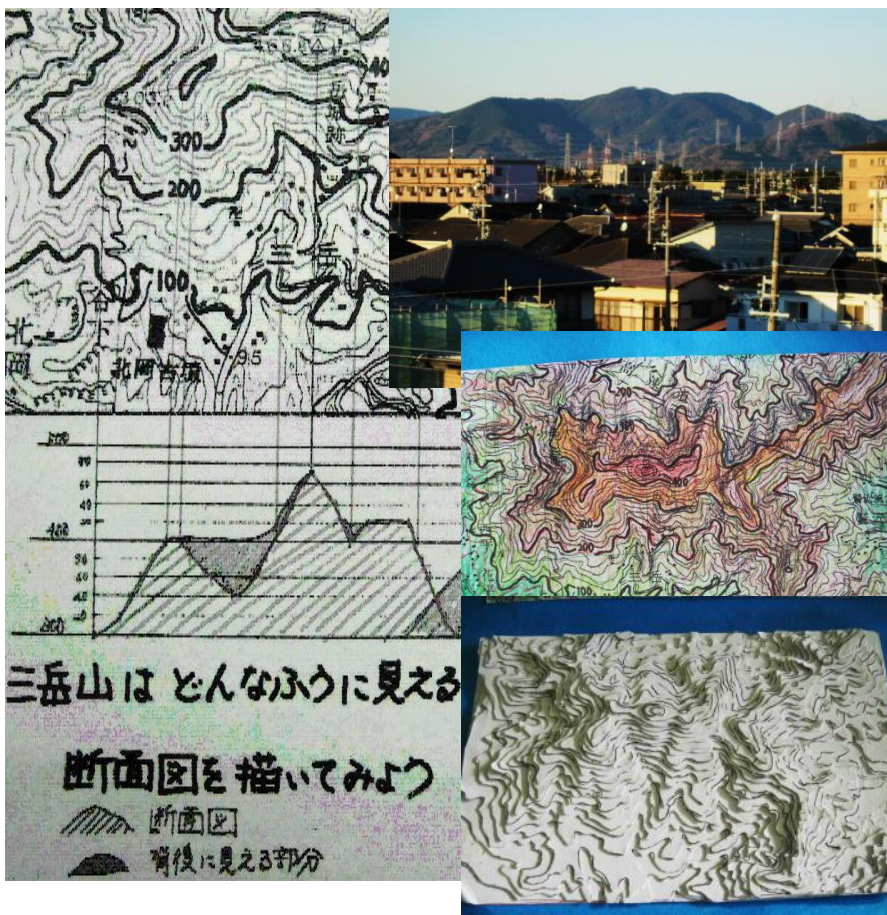
2. 私の地域調査の実践

(1) 身近な地域の実践～県西部地形図と「のびゆく浜松」で三岳山周辺の地形を使った学習～

開成中・三方原中・神久呂中に勤務しているときは、4fから見える北遠の山並みの中で一番目立つ三岳山を使って等高線と断面図を作り、発展課題として立体地図模型を作る実践を行っている。1学期最後の7月にのびゆく浜松p4~5と地形図を使って読図・分布図作成などを行い、夏休みの全員課題として「身近な地域調査のレポート」(地形図を使ってテーマを見つけ、必ずフィールドワークを行う)、選択発展課題として立体地図模型づくりを行っている。三岳山は、山の形が美しく好材料と思う。湖東中ならば根本山が最適と思う。

↓地形図ワークシート

三岳山・着色地形図・立体地図↓





**(2) 都道府県の調査～静岡と山形を取り上げることで「高度成長」を地理的認識の座標軸にする学習～**

2 ないし 3 の県を選んで学習する際、その学校がどこを選ぶか、どう学ばせるかが、この単元の最も大切な視点となる。私は静岡と山形を選択し、3 つめの県を自分で選んでレポートを作成するという形をとっている。静岡は自分の県ということがあるが、なぜ山形を選んだか。

単元名と学習内容	観点1 関心意欲	観点2 思考力・判断力	観点3 資料活用技能	観点4 知識・理解
B. 地理3 都道府県の調査 62 都道府県調べオリエンテーション 63 静岡県と山形県の調査と比較 1 地形 64 気候グラフの調査と比較 2 気候 65 統計の調査と比較 3 人口 66 生産物調査と比較 4 農業と工業 67 文化調査と比較 5 交通と文化 68 都道府県レポートづくり 69・70 レポート(1) 2 ネット資料 3 インターネット 71 レポート(2) 4 図書館 72 まとめと交流	・コンピュータグラフィックやGoogleアトラスの映像から、都道府県規模の地域に興味を持ち、1つの地域を選んで、地図や統計や身近な生活を調べその特色をレポートにまとめることができる	・都道府県の違いの理由を自然条件(気候地形)と人為条件(高度成長による国土の不均衡発展)の2つと結びつけて考えはじめることができる	・以下の方法を使って地域の特色をレポートにまとめることができる。 ・地形/地図帳・地図模型・立体視地図 気候/雨温図 人口/人口ピラミッド 産業文化/統計と身近な生活資料・聞き取り	・日本列島の基本地形、47都道府県名を知っている。 ・静岡県の基本地名、都市、地形、産業を知っている。 ・自分の選んだ県の基本的地誌を知っている。

上の年間計画＝評価基準にあるように、山形と静岡を比較することで、「高度成長による国土の不均衡発展」という座標軸を生徒に持たせることができるからである。3 つめの県を選ぶ際に、高度成長で恩恵を受けた太平洋ベルトとそれ以外のどちらに当てはまるかを踏まえて調べることで、その地域に対する合理的で体系的な認識を持つことができる。地理ノートは以下のように見開き 18p で構成し、3 つめの県のレポートをその最後に完成させて提出すると、1年間の地理の学びのポートフォリオとなる

静岡 メイン マップ	静岡 のレ ポー	山形 メイン マップ	山形 レポ ート	静岡の 地形	山形 の地 形	静岡の 気候	山形 の気 候	静岡の 人口	山形 の人 口	静岡の 農業	山形 の農 業	静岡の 工業	山形 の工 業
1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	56 時間目	78 時間目	910 時間目							
静岡山形の交 通・文化	2つの 県を 比べ	3つめの県メ インマップ	レポ ート										
11 時間目	12 時間目・課題												

静岡は中部山岳地帯南斜面に4つの急流河川の狭い海岸平野であることに対し山形は最上川が貫流し広い沖積平野を持つという対称性。東書green mapで3D地図を作成

静岡の工業が山形を圧倒していることをgoogle earth で実際の風景を見せる。google mapと併用すると、工場名から工業の内訳を確認できる。山形空港周辺のIT工場も確認できる。2時間目で国土全体の太平洋ベルトへの工業の偏在を示す。

**(3) 世界の国の調査～アメリカと中国+そのときに必要な国・世界認識の座標軸を持たせる学習～**

アメリカ・中国の2国を主に、ドイツ(EU)とその時に必要な国(本校ではブラジル、数年前はイラク)を加えて取り上げている。米・中2国は自然文化の差異だけでなく、経済・政治体制(資本主義と社会主義)という座標軸を持たせることを狙っている。紙数が尽きたが、この「座標軸」という考え方は、新指導要領でも絶対に失ってはいけない視角であると考えている。座標軸が1本ではだめで、多様で豊かな認識を持つおもしろさを生徒に伝える道具として、教師自身の内面の認識の目を常に磨いていきたい



1. はじめに

昨年この場所で、今時改訂で消滅する「地域調査」の総括を報告したが、それを受けて今年は今1年生(平成23年度入学)の地理の移行措置先行実施の取り組みを報告する。

今時改訂で最大の変化は地理分野の「20年前への回帰」現象である。前回の改訂は、1990年で世界地理を三つの国に、2000年で日本地理を三つの県に、という2段階で行われ、しかも教えこむ内容を減らすという改訂だったから、とまどいは大きかったが時数の不足や「この用語・事象を教えていない」という混乱は少なくてすんだ。

今回はそうではない。一二年の週時数3のまま、教えこむ内容は20年前の週4の時と同じ、歴史だけは三年の冒頭40時間に先送りできるというわけだから、地理の時数&教え込み内容が一気に増える。しっかり理解して新学期を迎えないと、地理分野の内容・時数増に、現場は振り回されるはずである。

現教科書では世界地誌・日本地誌とも記述がないから、多くの学校では先行実施を行えず、世界の三つの国と第3部日本の系統地理だけを行い、歴史を江戸時代まで進めておくというのが現状だろう。だとすると、新学期を迎え、2年生の新教科書地理を見て現場の先生はびっくりし、ひたすら世界地誌と日本地誌を詰め込み、歴史は近代(市民革命～第1次大戦)の30時間のみ、両分野のバランスを欠いた混乱の1年間となるはずである。

本年度、開成中では1年生に、移行措置資料(東京書籍編集のもの)をプリントとして配り、日本の諸地域30時間を以下の配列で先行実施した。新指導要領の配列にそるえるなら世界地理のほうがよかったが、カラーの教科書資料がないまま行いたくないこと、現指導要領の身近な地域→都道府県→世界という地域調査の精神を失いたくなかったこと、という2つの理由から日本地理を先行実施した。以下その年間計画と、その授業で多用した3Dアナグリフの実践を紹介する。

2. 移行措置に対応した年間計画

(1)現1年生(平成23年度入学)の3年間の指導計画

平成23年度入学生用 社会科年間指導計画 (移行期間最終年)				2011.8.30開成中学校 野島恭一	
1年(h 23年)		2年(h 24年)(新指導要領完全実施)		3年(h 25年)	
旧教科書で地・歴史型 (週3時間年間105時間) 地理60時間 歴史45時間		2年4月に地理のみ新教科書記布 (週3時間年間105時間) 地理60時間 歴史45時間		歴史旧教科書・公民新教科書 (週4時間年間140時間) 歴史40時間 公民100時間	
	旧	旧	移行措置	旧	
地理	1. 世界と日本の基本構成	→そのまま実施	4. 世界の国の調査 3つの国を選び学習する	→世界の諸地域 6州を州ごとにテーマを決めて学習する *新教科書を使う *新1年生も実施 →世界から見た日本 テーマごとに系統的に日本の国土の様子を学ぶ	(1学期) 1. 現代社会・高度成長 2. 憲法と人権 3. 民主政治① 立法・行政
	2. 身近な地域の調査	→そのまま実施	5. 日本の系統地理	→世界から見た日本 簡略化する(1年の日本の7地域7テーマでの学習が中心)	(1学期) 1. 歴史近代後半 (第1次大戦～太平洋戦争) 2. 現代 (戦後の日本) 3. 公民 憲法と人権
	3. 都道府県の調査 3つの県を選び学習する	→日本の7地域7テーマ *教科書なしで実施 九州(環境) 中国四国(人口) 近畿(歴史) 中部(産業) 関東(交流) 東北(生活文化) 北海道(自然)	6. 近世後半	近世前半(安土桃山) →そのまま(江戸)	(2学期) 4. 民主政治② 司法・地方自治 5. 経済 家計・企業・政府
歴史	1. 歴史の学び方	→そのまま	7. ヨーロッパの近代化	→そのまま	(3学期)
	2. 身近な地域の歴史	→そのまま	8. 近代前半(幕末明治)	→そのまま (明治の終わりまで)	6. 国際社会と日本
	3. 原始	→そのまま	9. 近代後半(第1次大戦～太平洋戦争)	→実施しない。	
	4. 中世	→そのまま (室町時代まで)	10. 現代(戦後の日本)	3年1学期に	
	5. 近世前半(安土桃山江戸)	→実施しない。2年生へ			

\* 来年(h 24)の入学生は新指導要領の教科書で完全実施  
 地理は 1年 世界と日本の基本構成→世界の諸地域→ 2年 日本の7テーマ7地域→世界から見た日本→身近な地域  
 となる。したがって「県西部5万分の1地形図」は2年3学期で使用するから、2年(h 25年)の購入。来年(h 24)の注文はあり得ないことになる。

翌年の1年生(平成24年度入学)と世界地理が重複し、掛け図など教材の使い回しが大変になる



(2)日本の諸地域を取り入れた1年生地理の授業計画 (年間計画より抜粋)

単元名と学習内容(地理15 歴史13)	観点1 関心意欲	観点2 思考・判断・表現	観点3 資料活用・技能	観点4 知識・理解	道徳との関連
<p>5月</p> <p>3. 地理1 世界と日本の基本構成</p> <p>10 地球はどんな星か</p> <p>11 地球の帯地 緯度と経度</p> <p>12 緯度の違い 暑さと寒さ</p> <p>13 経度の違い 時差1レベルA</p> <p>14 緯度の違い 時差2レベルB・C</p> <p>15 3つの世界地図</p> <p>16 かんたん世界地図のかきかた</p> <p>17 世界の国 国の形・名前・種類</p> <p>18 かんたん日本地図の書き方</p> <p>19 日本の国 8地方と47都道府県</p> <p>20 日本地図と振返り</p> <p>7月</p> <p>4. 地理2 身近な地域</p> <p>31 地形図を知ろう 地形図をおる</p> <p>32 地形図の使い方1 方位距離</p> <p>33 地形図の使い方2 等高線</p> <p>34 地形図の使い方3 土地利用</p> <p>35 テーマを決めてレポート作り</p>	<p>・地球全体の様子から出発して世界と日本の多様な姿に興味を持ち、調べようという意欲を持つ。</p> <p>・違いの背景には合理的な理由があることを知り、自分たちの社会と地域の生活を見直す視点を持ち始めることができる。</p>	<p>・気温の違いを四季の変化と混同せずに緯度の違いから説明できる。</p>	<p>・緯度経度で地球上の位置を示すことができる。</p> <p>・四季の変化を資料図から読み取る。</p> <p>・ロンドンを中心とする世界の時差を計算できる。</p> <p>・異なる2点の時差を計算できる。</p> <p>・6大陸3大洋の世界地図を書くことができる。</p> <p>・日本地図を描くことができる。</p>	<p>・6大陸3大洋5大州の名前を正確に知っている。</p> <p>・次の世界の主な国・地域の名前と位置を言える。</p> <p>・7都道府県・8地域区分を知っている。</p> <p>・地図記号の至なものを知る。</p>	<p>身近な地域を学び愛着を持つことから4-8郷土愛</p> <p>自分で計画を立て調査することから1-3自主自立</p>
<p>10月</p> <p>5. 地理3 日本の地域(九州・中国四国)</p> <p>37 日本の範囲 県名テスト</p> <p>38 日本の地域 県の形 県名テスト2</p> <p>39 九州1 全体テーマ「環境」</p> <p>40 九州2 九州の工業と環境</p> <p>41 九州3 環境と農業</p> <p>42 九州4 独特な環境</p> <p>43 中国四国1 全体テーマ「人口」</p> <p>44 中国四国2 人口立地と工業</p> <p>45 中国四国3 人口と1次産業</p> <p>46 中国四国3 人口減少と過疎</p> <p>12月</p> <p>7. 地理4 日本の地域(中部・関東)</p> <p>59 近畿1 全体テーマ「歴史」</p> <p>60 近畿2 歴史環境～京都奈良の町並み</p> <p>61 近畿3 水の歴史～琵琶湖と浜名湖</p> <p>62 近畿4 工業の歴史～阪神工業地帯</p> <p>63 中部1 全体テーマ～産業</p> <p>64 中部2 機械工業～自動車企業の今～</p> <p>65 中部3 流通と農業～2つのセロリ～</p> <p>66 中部4 雪と産業～北陸</p> <p>67 冬休み課題プリント作り・ノート点検</p>	<p>・日本の地形、都道府県の位置と名前に興味を持ち、日本全体図や県別地図に親しむことができる。</p> <p>・九州・中国四国の地理的特色に興味をもち、積極的に調べ考えようとする。</p>	<p>・列島西南部に位置し火山が多いという九州の環境特色からアジアとの交流やシラス台地上の農業の立地条件を説明できる。</p> <p>・瀬戸内を例に、石炭から石油へのエネルギー転換と工業の人口立地との関係、中国山地の過疎から人口と地理事象の関わりを気付くことができる。</p> <p>・産業の発展と歴史自然環境の兼ね合いを、京都の町並み保存、琵琶湖の水、東京の都市問題から考えることができる。</p> <p>・産業の立地条件を、東京の自動車工業、東海の施設園芸・北陸の水田農業や伝統工業から考えることができる。</p>	<p>・日本列島、都道府県の形から位置と名前を言うことができる。</p> <p>・九州と中国四国の様々な資料を使って、地域の特色を説明できる。</p>	<p>・8地域区分 47都道府県県庁名を読み書きできる。</p> <p>・九州、中国四国の基本地形地帯、火山関連の地形、東アジアとの位置関係、沖繩の歴史・自然環境の特性、エネルギーの種類と工業との関係、高層経済成長と人口偏在の関係をj知っている。</p>	<p>沖繩の独特な文化を知るjことから4-9愛国心・伝統文化</p> <p>過疎地域に生きる人の努力を知ることから4-2公德心・社会連帯</p>
<p>8月</p> <p>10. 地理5 日本の地域(3)～東北・北海道～</p> <p>77 東北1 全体テーマ～生活文化</p> <p>78 東北2 津波と冷害</p> <p>79 東北3 米の現在と未来</p> <p>80 東北4 伝統文化と将来</p> <p>81 北海道1 全体テーマ～自然～</p> <p>82 北海道2 輸入に負けない畑作</p> <p>83 北海道3 自然環境～道庁の特色</p> <p>84 北海道4 水産資源～漁業</p> <p>85 日本の各地域を調べるレポート</p>	<p>・自然と伝統文化が豊かな東北日本の姿や特色に興味を持ち意欲的に調べようとする。</p> <p>・日本の各地域のレポートを意欲的にまとめることができる。</p>	<p>・東北の伝統文化の豊かさを背景を高度成長から外れた地域としての特色から具体的に説明できる。</p> <p>・周水河地形と冷害という独特の自然から北海道の様々な事象を説明できる。</p> <p>・日本の各地域の特色の背景を考えレポートにまとめることができる。</p>	<p>・東北北海道の資料を読み取り、その地域の特色を調べるjことができる。</p>	<p>・東北北海道の基本地形地名、農業を中心とする基本産業の内容、東北の伝統文化の代表的なものを知っている。</p>	<p>自然災害の天気をj知るjことから3-1生命尊重</p> <p>3-2自然愛・畏敬の念</p> <p>自然条件の制約を克服する人間の活動を知ることから1-2強い意志</p>

旧課程(現指導要領)の第2部三つの国と第3部日本の系統地理のみの実施は、県の地域調査や日本地誌を学んだ後でなければ、生徒の発達段階を無視した無味乾燥な詰め込みとなってしまう。日本地誌ならば教科書がなくても資料は得やすいし、教師自身2000年までは教えていたはずで、ノウハウを持っている人は多いと思う。少なくとも2012年の混乱は少なくすることができる。

3. 国土地理院デジタル地図による3D立体アナグリフを教室で見せる授業

以前から衛星画像やグーグルアース、東書グリーンマップによる3D解析画像を使った授業はしていた。ただ、赤青めがねを使ってみる立体地図の迫力には勝てない。赤青立体地図(以下アナグリフと呼称)を教室で拡大して見せられないか、と考え今年には実践してみた。



(1)立体めがねを作る

①めがねセロファン

赤青セロファンは文具店ですぐ手に入る。カッターで3×4センチにカットしクラスに配布する。200人分でもB4セロファン5枚程度でできる。3センチの帯に切っておき、後は班で切らせれば楽である。

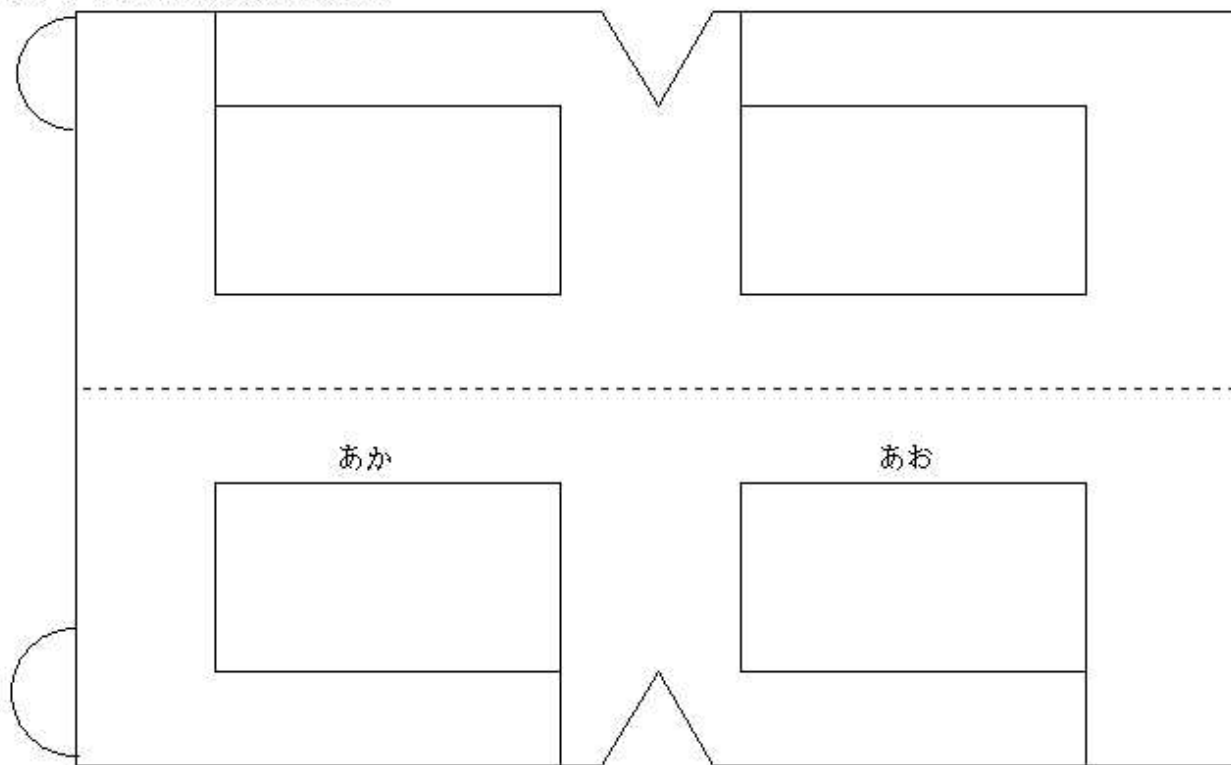
②めがねフレーム

画用紙に印刷し、生徒がはさみでカットし作成する。市販のものを購入しなくても、1時間でできる。全員作らなくても、1クラスで作って持ち回りで利用すれば画用紙を節約できる。4つ切り画用紙を

4分割して、B5サイズで印刷すれば、10枚でクラス40人分ができる。設計図(実物大)は以下の通り。実践部分をはさみで切り抜き、間にセロファンを挟んでのりで留める。

## (2)立体地図を拡大する

アナグリフ立体視用赤青めがね



↑ 1984年版週刊朝日百科世界の地理  
日本列島の3Dが部分で紹介されている。

国土地理院3Dデータからダウンロードすることもできるが、自分は左掲の週刊朝日百科1984年世界の地理60号を手元に持っているのだからこれを拡大コピー・スキャンしたものを使うことが多い。現在では様々なデータがインターネット上に流れている。

### (1)学校のカラーコピーで拡大印刷し貼り合わせる。

下は九州地方の拡大立体図。阿蘇のカルデラはシラス台地、始良カルデラなどがくっきりと見て取ることができる。大小3枚作り教室の前後に掲示し生徒に見させた。







## (2) スキャン画像を教室の大画面テレビで見る

開成中は各教室教師用ロッカー上に大画面テレビが配置され、各種プラグも標準装備されているためテレビが使いやすい。拡大コピーよりスキャンデータの方がいいのではないかと考えて実行してみた。液晶画面で見た画像は、予想以上に鮮明で、しかも縮小拡大が自由自在である。拡大すれば、教室の一番後ろの生徒にも、断層の線をはっきり見せることができる。拡大コピーよりもずっと使い勝手がよい。

パソコン1台で準備も楽だし、グリーンマップの3Dやグーグルアースと併用すると効果が大きい



## (3) スキャン画像の様々な活用

中国四国地方では、中国山地と四国山地の比較、中央構造線、瀬戸内海と讃岐平野の海岸地形などをはっきりと見せることができ、生徒から驚きの声が上がった。スキャン画像はデータとしていくらかでも加工できる。彩度や明度を濃くすることも可能だし、何より拡大16倍印刷で大きな地図を自由自在にプリントできる。上はそれを貼り合わせて校舎踊り場に掲示したもの。立体めがねをおいてあるので生徒は休み時間に自由に見ることができる。学ぶ環境作りに役立っていると思う。

## 4. 今後の課題と方向性

新旧指導要領の地理事象の変化を比較すると、日本地理は10年前の内容と比べて「高度成長による国土の不均衡発展」という座標軸に大きな変化はない。しかし世界地理は20年前と比べ大きな違いがある。私たちの準備はできているだろうか。地球温暖化の危機的な進展・中国インドの発展と絶対的貧困の拡大・EU統合の進展と危機・イスラムシーア派運動の台頭など、世界を取り巻く基本構造の正確な把握とタイムリーな「動的な把握」の両方が必要とされる。この状況に対して、私たちが20年前と違うのは、インターネットを学校で使えるということである。新しいメディアを駆使した実践をしたい。

もう一つ、公民の後半、経済分野の授業が手薄にならないようにしなければならない。従来のペースだと3学期は受験プリント中心で、経済は事項の羅列暗記だけに陥る可能性が大きい。現在の社会状況で、家計・消費者・労働者の立場をどう教えるか、を中心に、経済の授業の充実は私たちの義務である。